

平成23年度 食品の安全・安心シンポジウムで出されたご質問・回答(シンポジウム会場で行われた質疑応答)

区分	ご質問・ご意見	回答	シンポジウムにおける回答者
予防	<p>消費者が気を付けたいと考えた時、どのような情報が必要と思われますか。食物の種類によっても、汚染度に大きな差があることは、あまり知らされていないのでは。</p>	<p>騒がれたお茶や、しいたけなどは、乾燥させることによって重量が減るので、放射性物質の濃度はぐっと上がるというのが実態です。元へ戻すと濃度が下がるということになります。お茶つばの状態ですと濃度が高くなるのです。そういう情報を理解しないと、お茶は危険だ、しいたけは危険だという風になっていくのかなと思います。1人の人間がすべてを理解するということはなかなか困難です。ですから、信頼される行政があって、そこにたずねるとか、そういうことが必要になってくるのだと思います。</p>	<p>臼井氏</p>
予防	<p>資料P52では、食品に気を付ける付けないで体内汚染度に差が生じています。今の食品販売状況で食品に気を付けることが、しやすいと思われませんか。</p>	<p>低線量の安全性は不明確なところがあります。生涯追加線量100ミリシーベルト未満にしようという国の動きがあるところですが、当然、高濃度の汚染可能性のあるものを食べていけば、体内濃度は高くなっていくわけですが、やはり、不明なところがある状況では、いろんなところから、詳しい情報を知ったうえで、自分なりの工夫というものはしていただきたいと思っています。行政が表示をしろとか、店舗側での表示をどうするかということには難しいところがありまして、表示をしたら、消費者の方がそれを分かって、すべての方が安心して選択できるかということ、そうでもない問題がいろいろありますので、いろいろところで検討されるべき問題だと思います。科学的な解明が進む中で、時間とともに少しずつ進んでいく問題ではないかと思っています。</p>	<p>加藤</p>
予防	<p>1才の子供がいます。先生のお話でも、子供に与える影響が心配だとありましたが、普段の生活の中で、保護者が気をつけると良いことを教えてください。</p>	<p>福島の方々に、母乳中に出てきたということがありました。ご質問された方はこの辺の方だと思いますが、この辺の大気中の放射線量は、福島に比べますと桁が違うほど非常に小さい数値ですので、そうした心配はないと思います。あと、お子さまのことですので、食べ物について心配になられると思いますが、暫定規制値を上回るものは出回らないということですので、心配ないのではないかと思います。あと、産地については、補足的ではありますが、いろいろな産地のものを選ぶとよいということも本日のテキストには書いてありますので、ご参考になればと思います。</p>	<p>安田氏</p>
検査	<p>大垣市の給食センターでは、放射能の検査をしていくということを聞きました。子供が毎日食べる給食によって、被曝することは絶対にあってはいけません。今後、県内の全ての給食センターにて、検査していくことは可能でしょうか？</p>	<p>安田先生のご講演の中で、チェルノブイリの近くの村では、小学校で物理の先生が測るシステムがあるということでした。状況が長期に継続していくという中であって、非常に完成されたシステムだと思いました。ただ、このシステムに至るまでには、何年かの時間がかかっていると思います。事故後8カ月という中で、検査機器を作る工場も少なかった中、フル生産で作られたものを買う。機器もそれぞれ検査に適したものを買わなければいけない。これは非常に高額になっている。全国みんなが欲しがっている。こういう状況の中、すべての学校給食センターに設置する計画ですよとは言えない。今はそういう状況だと思います。優先順位を決めながら、どうするのか決めていく必要があると考えています。</p>	<p>加藤</p>

平成23年度 食品の安全・安心シンポジウムで出されたご質問・回答(シンポジウム会場で行われた質疑応答)

区分	ご質問・ご意見	回答	シンポジウムにおける回答者
流通	<p>・食品のベクレル表示を希望します。(イオンでは、検査結果を出しています。)家族構成に合わせて、食品を選択できると思います。(妊婦、子供がいる家庭は、ベクレル数の低いものを買う等、対処できると思います。)</p> <p>・放射能の具体的な数値を表示することがなぜ風評被害につながるのですか？東京では、実際に表示して販売しているところがあるそうです。また、イオンでは「放射能ゼロ宣言」をしたそうですが、ユニーでは今後そのようなことは考えていかれますか？消費者の不安がなくなれば、風評被害もなくなると思います。</p>	<p>ベクレル表示について、A産地のほうれんそうのベクレル表示が10ベクレル、B産地のほうれんそうのベクレル表示が5ベクレルだとすると、お客様はどちらを買われるでしょうか。たぶん、後者だと思います。さらに、C産地のじゃがいもが売られていて、そのベクレル表示が「検出されず」であった場合、お客様はどれをお買いになるでしょうか。大体の方は、ほうれんそうを買わずにじゃがいもを買われると思います。当然料理の内容によっても選択は変わってくるのですが、これがどうして風評被害になるのかと言いますと、皆、その産地のものを避けられるからです。結果として、売っている側が、お客様のためにということでベクレル表示をすることが、かえって、その産地に対しては、風評被害を引き起こしているということになります。</p> <p>お客様はご自身の立場で買い物をするわけですから、避けられるのは当然のことですけれども、わたしども販売する側としては、産地の方のことも考えなければいけないですし、お客様のためにということも考えなければいけない。</p> <p>一部の個人店に近いような店舗は、その店の責任で、産地と直結したところで、商売をしてみえるものですから、そういったベクレル表示は有効だとは思いますが、しかし、多数店舗を抱えている企業にとっては、リスクになってしまいます。このことをご理解いただきたいと思います。</p> <p>イオンさんのゼロ宣言についてですけれども、厳密に言えば「検出されず」です。当然、ゼロなどというものはありません。検出下限値以下のものは「検出されず」になります。そういったものは販売しますということです。</p> <p>少しでも出たものは売りませんという形でイオンさんのホームページには出ております。</p> <p>ユニーという会社には、グループを含めて、自社の検査機関がないものですから、第三の機関を使ってできないか、検討中です。いましばらくお待ちいただきたいと思います。</p>	河路氏
流通	<p>野菜や魚などは産地が明記されている分、放射能を考慮することが出来ますが、お弁当など加工している物に対して、お客様から意見等ありましたらお聞かせください。</p>	<p>わたしどもの店舗にそういった声はいただいておりませんが、同業他社さんの方ではそういう声はいただいていると聞いております。11月7日には、東京都が、加工食品を、東北産のものを使っているものについて、毎週20から30、サンプル検査すると言っています。3月までを目途にトータル500アイテムを検査するという内容になっています。お客様の声としては、産地については特に何もありません。</p>	河路氏
生産	<p>牛についての話はありますが、豚や鳥についてはどうですか？被災地の子供達へのケアとして、ずっと検査していく中で、私達にも出来る事は、骨髄バンクの登録とかも進んで出来る事かなと思いました。</p>	<p>牛だけでなく、豚、鶏についても県内で生産しています。</p> <p>これらは、食べるエサそのものが違います。牛については、牧草なりを与え、肉牛については最後の方に稲わらを与えるという飼育形態となっています。</p> <p>豚や鶏については、稲わらや牧草は与えていません。とうもろこしなどの飼料を与えています。</p> <p>したがって、今回の福島原発事故由来の放射性物質汚染については、豚、鶏については問題ないと見えています。</p>	藤井氏
生産	<p>岐阜県産の肉牛に放射能汚染の麦わらを食べたことが原因でありましたが、何故遠くの麦わらを移入しなければならなくなったのですか。</p>	<p>東北は米どころ、米の産地です。東北の稲わらは非常に牛の食いつきがいいという話も聞いています。また、コスト的にも安く稲わらの生産がされていると聞いています。</p> <p>したがって、過去から、個々の農家ごとの判断で、東北の産地から稲わらを取り寄せて、エサにしているという農家もあるということです。</p> <p>岐阜県からしてみれば、なぜ遠いところから稲わらが来ているのか、ということになるかと思いますが、実態として、過去からこういうことがありました。</p> <p>こういったことを受けまして、県内でも稲わらを生産していますので、県内の稲わらを県内の肥育農家に使っていただくと、流通の整備を始めているところです。</p>	藤井氏
生産	<p>ファーマーズマーケットや、個人経営等、小規模の生産者の対応について、どのような対応をしていますか。</p>	<p>JAグループとしては、個人で出荷されている方については、同じ生産者の仲間ということで、残留農薬などについては、生産履歴の記帳も含めて、指導といったらおこがましいですが、同じ対応をさせていただいています。</p> <p>ただ、今回の放射能については、特に、そういった方々に対して、JAグループとして、何かしているかと言えば、特にありません。</p>	藤井氏
生産	<p>放射性物質の食物連鎖の中で、濃縮を考慮する必要はないのですか？</p>	<p>これは、あると思います。ただ、細かなデータは持っていません。だんだん大きな生物が食べて、濃縮されるということはあると思います。</p>	安田氏

平成23年度 食品の安全・安心シンポジウムで出されたご質問・回答(シンポジウム会場で行われた質疑応答)

区分	ご質問・ご意見	回答	シンポジウムにおける回答者
リスク	<p>学校給食や保育園の給食において、リスクを減らすために、東北産の野菜を使用しないとか、魚介類は、3/11以前の冷凍物を使用する、牛肉はオーストラリア産といった考え方についてどうお考えでしょうか。</p>	<p>非常に幼少の子のいる保育所、幼稚園では、そういった対応を取ることによって父兄の方の安心をとりなすということで、非常に大きな効果があると思います。ただ、納入されてくる商品は、きちっと制度化された流通ルートで来ますので、問題ないのです。これは、食品の安全性といった食品の放射性物質の問題と、親御さんに対する対応という、考え方の違う問題です。安全か安全でないかと言えば、そこまでの対応はしなくてもいいのではないのでしょうか。ただ、そこは、経営者の方針ということになると思います。</p>	前澤氏
リスク	<p>日本は風評被害が大きい国だと思います。放射能汚染の疑いのある牛肉を販売したとの報道で、飛騨牛が全く売れなくなった店があると聞きました。昭和の時代は、リスクゼロを求める国民は少なかったと思いますが、日本がリスクゼロを求める国民となったのはどんな理由とお考えですか。</p>	<p>基本的に、リスクゼロを求めるといことは最近のことだというよりも、その昔は規制値がありませんでした。食品衛生法、JAS法、そういったものも今のように厳しくありませんでした。そういった状況でしたので、何も分からなかったのです。</p> <p>ところが、科学技術が発展し、かつ、食品の流通がグローバル化したことによって、より厳しい、詳細な基準を決めることになり、リスクができ、ハードルができたのです。それが報道されることで、日本人が非常に気にするようになってきたのです。</p>	前澤氏
リスク	<p>選択できないことを、他のリスクと同じように扱うのは、おかしいのでは？</p>	<p>リスクというものを、自分で受け入れるか受け入れないかという選択は、自分にあるわけです。</p> <p>安全というものはどういうものかという、リスクというものは絶対あるのだという立場に立った上での安全というものが存在するのです。すなわち、リスクを考え、リスクを自分で受け取るのです。</p> <p>リスクと、そのリスクを無視して食べたり、行動したりすることによって得られる利益とのギャップ、バランスを考えて、自分としては、これが安全だというふうに考えるわけです。</p> <p>飛行機に乗ることもそうです。絶対飛行機は落ちるのです。しかし、そのリスクは非常に少ないということで、その利益を考える。</p> <p>ですから今のご質問での、放射性物質を食べるか食べないか。食べることによって得られる利益、「安いから」とか「そこにしかないから」といったようなことですが、自分がその利益を納得できれば、同じレベルで議論できますけれども、それでは納得できないということであれば、リスクゼロの考え方に行くしかない。ですからその辺で、ご自分の判断が決まってくるのだと思います。</p>	前澤氏
リスク	<p>新しい基準が示されるにあたり、判断するためのデータが少ない中、アバウトな感があり、信頼感をもてません。</p>	<p>これは行政、政府に対するクレームだと思います。政府の方々もそういう不満は重々承知しているのです。しかし、数字を決めなければいけないというミッションがあるわけです。そのミッションに向かおうとすると、すべての方のご要望を受け入れることはできないのです。</p> <p>ですから、今、100ミリシーベルトが1つの基準だということについても、それは食品から受ける放射線量のこと、その他のものは考慮していないということで、さかんにたたかれていますけれども、逆に、他のものもカウントすると、「人間の生活というものは政府が規制するものではなくて、自由に行動できるべきだ」といったクレームが出てくるのです。</p> <p>ですから、行政の限界、数字の限界というものを認めるべきではないかと思えます。</p> <p>リスクテイク、リスクを受け入れるという考え方に、これからは、どうしても立たなければならないという状況になってくるのではないかと思います。</p>	前澤氏

平成23年度 食品の安全・安心シンポジウムで出されたご質問・回答(シンポジウム会場で行われた質疑応答)

区分	ご質問・ご意見	回答	シンポジウムにおける回答者
学問	・自然界の核種と、人工の核種の危険性の違いはあるのか。違いがあるとすれば、単に、SVの値だけで危険性は測れないのではないのか。	違いはありません。同じです。同じ考え方で対処すればよいものです。	安田氏
学問	・診療放射線技師は、ガンが多い？	そのようなことはまったくありません。皆さんと一緒に考えています。	安田氏
学問	・あえて福島県産物を摂取することで、 ・また、人間ドックや健診をたくさんすることで、 想定以上の放射線を取ることにならないのか。	市場に出ているものは規制値を下回っているものという考え方ですので、福島県産でも問題ないのではないかと思います。 また、過度な頻度で放射線を用いた検査を行う必要はないと思います。多い人でも高齢者で年2回くらいですね。あと、もう1つは、どういう検査をしたのかということです。検査によって医療被ばく量は違ってきます。胸の写真ですと非常に少ない被ばく量です。胃の検査ですと1ミリシーベルトくらいあります。あと、PET(ペット)という検査を聞いたことがありますでしょうか。陽電子を検出した画像でがんの部位、つまり糖代謝の盛んな部位を検出する検査ですが、これはちょっとエネルギーの高いお薬を身体に入れて、さらに、場所を特定するためにCTも行い、2つの検査を同時にやることになります。これは、1回のCT検査の倍ほどの被ばく量があります。こういう検査は通常の医療被ばくよりは高いということになります。	安田氏
その他	放射能汚染の問題により、品質管理の方法や検査内容等に変更したことはありますか？	特別に、特定の産地のものを避けるですとか、そういったことはしていません。流通の段階で、生産地、あるいはお取引先様のところで、検査していただいて、規制値を超えたものは流通しないというふうになっております。超えた商品をユニーに流さないという約束もしていますので、その点は大丈夫です。今までどおり、品質基準を変えるということなくやっております。 当然、残留農薬の検査などもきちっとやっております。	河路氏
その他	ユニーでは、安全なものしか販売していないと信じてよろしいか。その根拠は、行政の対応なのか、御社独自の社内基準ですか。社内基準で有るならば、それは安心(イメージメイク)への配慮か安全(数値による確認)の確保なのか	手厳しいご意見ですが、信じていただいていいと言い切ります。 基準値は、農産物は500ベクレルが100に下がるだろうということです。 国の答えは来年4月を目途に出してくるということですが、これまで100ベクレルという数値は過去に一度も出ていませんので、安全だと言い切ります。	河路氏
その他	「東北産のものを応援して買おう」「放射能は他の発ガン物質(タバコや酒)より、危険は少ないことを、皆に伝えよう」と発言されましたが、今回は何度も暫定規制値を超した食品が流通したという事実があります。幼い子をもつ親としては、軽々しく、東北のものを買おう。放射能は他より大丈夫と言ってほしくないです。いかがお考えでしょうか？100mSV未満の健康被害はわかっているというの、事実ではないのでしょうか？	地元の地産地消を応援している中で、もしこのような事故が岐阜県で起きたらどうでしょうか。今は東北の問題ですが、今日ここに参加するに当たり、皆さんどう考えていらっしゃるのかなど周りの方の意見も聞きました。 東北産を応援しようというのはお店に出ているものは安全だという下でのことです。東北や福島に飛び込んで行って買ってこようということではありません。わたしの説明不足であったかもしれませんが、基準をきちんと守られたものが出回っているわけですから、そのようにわたしは考えています。 小さい子のことを考えたら避けるべきだろうと言われれば、わたしも専門家ではありませんので、根拠なく言っていることになってしまいますが、やはり、心配のない基準をクリアしたものであるという前提での話です。	桑原氏
その他	現在流通する食品は「安全」(放射能に関しては)だとすると、流通できなかった食品は、全て廃棄される、されているのですか？もしくは、ネット動画で「支援物資として、海外へ」という動きがあるという報道を見ました。(海外メディアです)こういう事は、ありうるのですか？	余ったものをどうするのか。これは食品ロスの問題で、非常に大きな問題です。放射性物質以外のものでも、問題になるのですけれども、いらぬ商品は基本的には処分します。エサになったり、廃棄したりします。基本的に、基準がきちっと定められています。測定して、無駄のないようにエサに回したり、どうしようもないものは廃棄したりします。 海外への輸出については、相手国の基準にマッチしているかどうかによります。海外諸国も今は日本の食品は警戒している状況です。相手国の基準にのっとったものは輸出されます。実態はちょっと分からないです。	前澤氏

平成23年度 食品の安全・安心シンポジウムで出されたご質問・回答(シンポジウム会場で行われた質疑応答)

区分	ご質問・ご意見	回答	シンポジウムにおける回答者
その他	<p>食品の検査をされていますが、ベクレル表示せず、「暫定規定値以下で、大丈夫です」と言われますが、もし子供が暫定規定値ギリギリのものを毎日食べても大丈夫なのでしょうか？既に白血病のリスクは2倍になっているのでしょうか？</p>	<p>このあたりで生活して見える方は、もうほとんど心配ないと思っていただいてもいいと思います。セシウム137が500ベクレル検出された食品を100グラム食べた時の線量は0.0007ミリシーベルトです。その程度の非常に小さいものです。</p> <p>小さなお子様ですので、心配だろうとは思いますが、政府も4月を目途にもう少し厳しい規制値にするようです。乳幼児用食品の規制値も検討されています。自ら選択できるよう工夫をすることぐらいが、今できる対処かなと思っています。</p>	安田氏